AIをいい感じに使う設定や環境のアレコレ

～開発の摩擦を減らす5つの工夫～

個人開発集会 | 2026/03/12(木)

自己紹介

らてです。WebとLLMが好きでその辺をよく触っています。

今回は、特定の技術やプロダクトにフォーカスした話ではなく、

開発をしやすくするための工夫やツール設計の話をします。

1. 起動前ダッシュボードの設定

毎回WEBダッシュボードを開く手間を0に

1. 起動前ダッシュボードの設定

使用料確認の為にブラウザを開くのが面倒

- いちいちWEBダッシュボードを開くのは時間がかかる

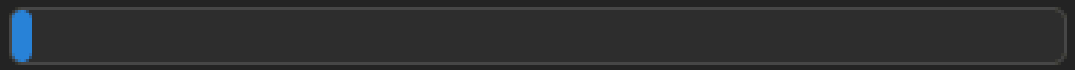
急にリミットが来て作業が止まる

- 使用率が見えないと作業中にリミットにかかって手が止まる

プラン使用制限

現在のセッション

4時間15分後にリセット



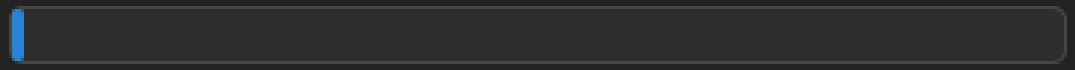
2% 使用済み

週間制限

使用制限について詳しく見る

すべてのモデル

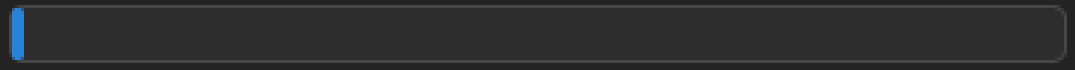
19:00 (木)にリセット



0% 使用済み

Sonnetのみ ⓘ

19:00 (木)にリセット



0% 使用済み

最終更新: 1分前

起動前ダッシュボードの設定

`agents-startup` スクリプトを作成し、`codex` / `claude` コマンド実行時に

ClaudeはOAuth API、**Codex**はapp-server経由で

使用率を取得し、プログレスバーで表示

```
op:~/workspace/repos/slide-generate$ claude
: /home/user/.claude/CLAUDE.md
: /home/user/.claude/settings.json
: /home/user/.claude/skills/
  frontend-design | mcp-builder | my-discord-webhook | my-env-check | my-new-repo
  my-pr-format | my-subagent | my-tmux-send | my-version-management | my-work-log
  playwright-cli | skill-creator | theme-factory
: /home/user/.claude/commands/
  agents-startup | cleanup-post-pr | manage-prompts | manage-skills
  review-holistic | settings-claude-statusline | settings-hooks
  settings-sync-agents | setup-repo
: /home/user/.claude/agents/
  docs-refactor
: /home/user/.claude.json
  (none)
: check limit link
:                    2%  Reset 2026/03/13 00:00 (  04h left)
:                    0%  Reset 2026/03/19 19:00 (6d23h left)
 Claude Code v2.1.74
 Sonnet 4.6 · Claude Pro
 ~/workspace/repos/slide-generate
```

```
 4.6] | check limit                                              In
ss permissions on (shift+tab to cycle)                          ◐ medium
```

工夫点

- 起動時に動的に使用率を取得するためリアルタイムな値が確認可能
- 設定値も表示することで編集を行いやすく

2. ステータスラインの設定

画面の端でリアルタイム表示、常に残量を意識

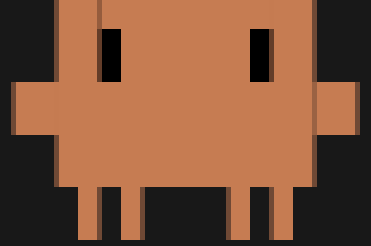
Auto compactが発動して
文脈が突然消える

コンテキスト残量が見えず、作業が急に中断されることがあった

ステータスラインの設定

ステータスライン設定を用いてセッション中のコンテキスト使用率を

画面下部にリアルタイム表示



Claude Code v2.1.74
Sonnet 4.6 · Claude Pro
~/workspace/repos/slide-generate

> say "hi.

● hi.

>

[Sonnet 4.6] used:9% | check limit
▸▸ bypass permissions on (shift+tab to cycle)

工夫点

- 使用率に応じてブロックが埋まっていく演出
- 使用率に応じて水色→緑→黄→赤に変色し、視覚的に残量を伝える

3. 設定同期の自動化

スキル・コマンド・設定を自動で揃える

ClaudeとCodexで設定がズレる

- 毎回どちらを使うか判断する認知負荷が発生
- 手動同期の手間とストレス

設定同期の自動化

- `rsync` と `cron` を用いて、 `~/.claude` の設定を30分ごとに監視
- 変更があった場合、 `~/.codex` へ自動同期
- gitで変更の記録も行い、GitHubリポジトリにpush

sync-claude-settings アプリ 昨日 9:50

Claude 設定が同期されました

変更サマリー

1 file changed, 5 insertions(+), 7 deletions(-)

変更ファイル

• skills/my-subagent/SKILL.md

コミット

569d524

コミット差分

https://github.com/RateteDev/claude-settings/commit/569d524f0fb40c56b3bb4dd3dd77b0e1e85253ae

2026-03-11 09:50:02 JST

5 -7 lines changed

Search within code

/SKILL.md +5 -7

+7,10 @@ description: |

t 委譲スキル

テキスト消費を抑えつつ、テスト・エラー調査・並列作業をサブエージェントへ委譲する。
ラー調査・並列作業などをサブエージェントへ委譲することでコンテキスト消費を抑えつつ別角度からの視点を得る目的

ルール

参照はパスで渡す（内容は貼らない）
クト構成・使用技術・重要なディレクトリ・作業内容などの背景知識はプロンプトに含めてよい。
の記述はシンプル・簡潔に。「何をすべきか（外側の振る舞い）」を1〜2文で伝える
スでフォーマットは指定しない。
イルがある場合、展開せずファイルパスで渡す
緯・何をしてほしいかをプロンプトに含める
スで伝え、推測や憶測を含めない
りが生まれるため、フォーマットや観点は極力指定しない

4. Discord通知の設定

AIの応答完了がEmbed通知で届く

スマホで通知が受け取れず PCに戻るまで進捗が分からない

複数セッションを同時に回すと、他ウィンドウの完了にも気づけなかった

Discord通知の設定

ClaudeCode / Codexのhooksを用いて、

応答完了時にDiscord WebhookへEmbed通知を自動送信

Claude | 応答完了

Claude Code の応答が完了しました。

最終応答
完了いたしました。すべてのトピック（1~6）について、以下の3点のヒアリング内容を素材メモに追記しました：

- 導入前に何が困っていたのか
- なぜその構成にしたのか
- 何が楽になったのか

また、トピック6の最後には、調査予定として `/home/user/workspace/repos/web/docs/スクリーンショット撮影ツール.md` の確認を記載いたしました。

次のステップ（context/03-outline.md への構成化など）についてのご指示をお待ちしております。

5. PRフォーマットスキルの導入

毎回のランダムなフォーマットを統一スキルで固定

PR本文が毎回ランダムで読みづらい

- Codex特有の表現やネストした箇条書きが認知コストを上げていた
- PRごとにフォーマットが異なり、内容の把握に時間がかかる

- ページ読み込み時やページ復元で初期スクロール位置が存在するケースで Header の自動表示/非表示が期待どおり同期されない不具合を解消するため。
- 要素取得に失敗した場合にスクリプトが例外で停止し機能全体が壊れる可能性を減らすため。

Description

- `src/components/Header.astro` のクライアントスクリプトを IIFE 化して初期化処理を局所化し、要素参照を `as ... | null` に変更して安全に扱うようにした。
- 要素取得に失敗した場合は早期 `return` してスクリプト全体の例外を防止し、null 安全を明示するために `safeHamburger` / `safeMobileMenu` / `safeHeader` を導入した。
- 表示/非表示判定ロジックを `updateHeaderVisibility(currentY)` に切り出して整理し、`scroll` イベントハンドラはこの関数を呼ぶように変更した。
- スクロールリスナー登録後に `updateHeaderVisibility(window.scrollY)` を実行して、初期表示時（ページ復元含む）にも Header の状態を同期するようにした。
- 作業記録を `docs/logs/0014-fix-header-auto-hide-initial-sync.md` に追加した。

Testing

- ビルドを実行して `bun run build` が成功することを確認した（成功）。
- 型チェックを `bunx astro check` で実行してエラーがなくなることを確認した（成功）。

RateleDev commented last week • edited

概要

- `.bun-version` を追加し Bun 1.2.15 を固定
- `quality` ジョブに `permissions: contents: read` を追加
- `quality` ジョブに `timeout-minutes: 10` を追加
- `Setup Bun` に `bun-version-file: ".bun-version"` を追加
- `make ci` の警告解消として以下を修正
  - `src/components/Footer.astro`: SVG に `title` を追加
  - `src/components/Header.astro`: `button` に `type="button"` を追加
  - `astro.config.mjs`: `cloudflare({ imageService: 'compile' })` を明示
- 作業ログ `docs/logs/0008-unit2-ci-workflow-improvement.md` を追加

検証

- `cd /tmp/worktree-unit2 && make ci`
- 結果: 成功（0 errors / 0 warnings / 1 hint）

PRフォーマットスキルの導入

`my-pr-format` スキルを用いて、PR作成時に

4つの見出し + テーブル形式の変更履歴 + まとめ + 備考・懸念のフォーマット
を適用させた

RateteDev commented yesterday

🎯 PRの概要・目的

`make typecheck` などの前処理では、`tools/fetch-site-data.ts` が既に持っている `SITE_DATA_SOURCE` / `SITE_DATA_PATH` / `SITE_DATA_URL` の既定値を、`Makefile` 側から毎回長く上書きしていました。
そのため、既定値の責務が呼び出し側にも分散して読みにくく、`SITE_DATA_REFRESH` も `0` 以外をすべて真とみなす暗黙判定のままでした。
この PR では、既定値の管理をスクリプト側へ寄せ直し、`SITE_DATA_REFRESH` は `true` / `false` を中心にした明示パースへ改め、`Makefile` の呼び出しを簡素化しました。

📝 変更内容

> 🟢 新規 / 🟡 変更 / 🔴 削除

site data 取得処理

ファイル	説明
🟡 `tools/fetch-site-data.ts`	`SITE_DATA_REFRESH` を `true` / `false` で明示的に解釈する `parseRefreshFlag` を追加し、`1` / `0` も移行互換で受け付けるようにしました。
🟡 `tests/tools/fetch-site-data.test.ts`	`parseRefreshFlag` の正常系と異常系テストを追加し、設定値の解釈を固定しました。

RateteDev commented yesterday Author

変更前後の `make typecheck` 出力です。実行時の先頭部分を抜粋しています。

Before

```
$ make typecheck
SITE_DATA_SOURCE='remote' SITE_DATA_PATH='.tmp/site-data/site.jsonc' SITE_DATA_URL='https://assets.ratete.dev/site/s
[site-data] using cached file: /home/user/workspace/repos/web/.tmp/site-data/site.jsonc
bunx astro check
```

After

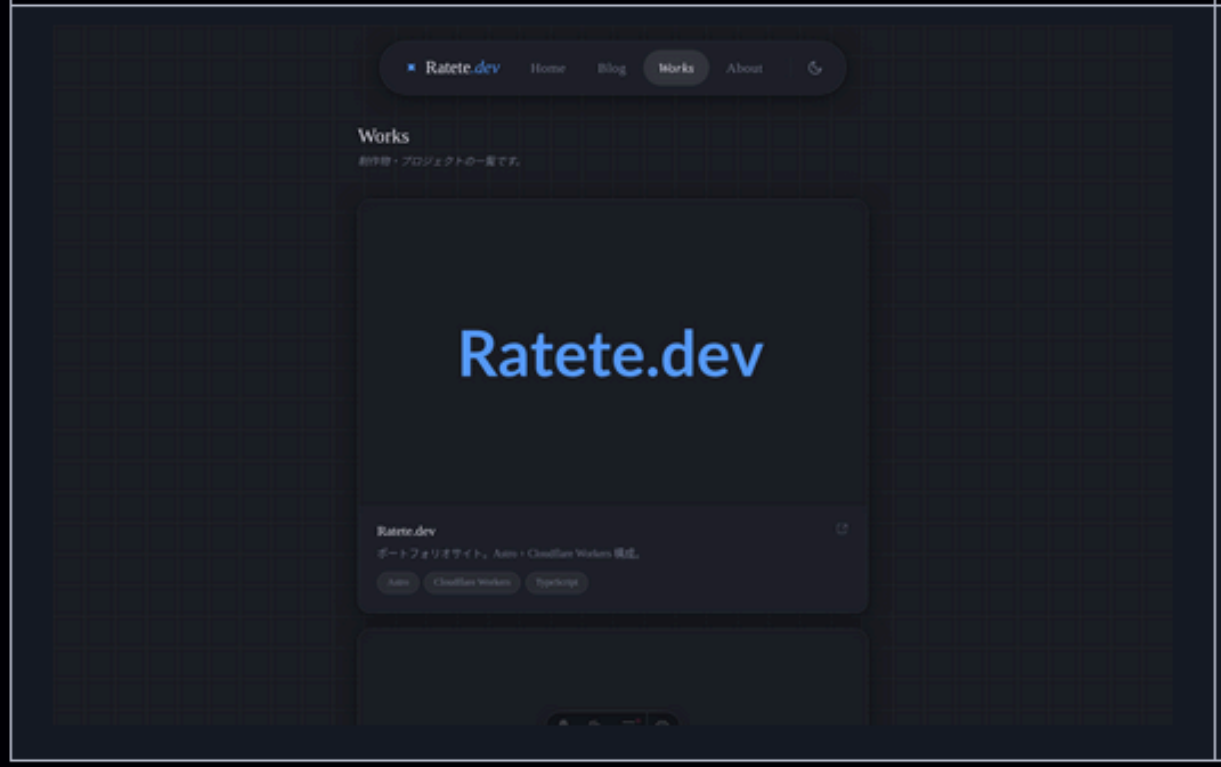
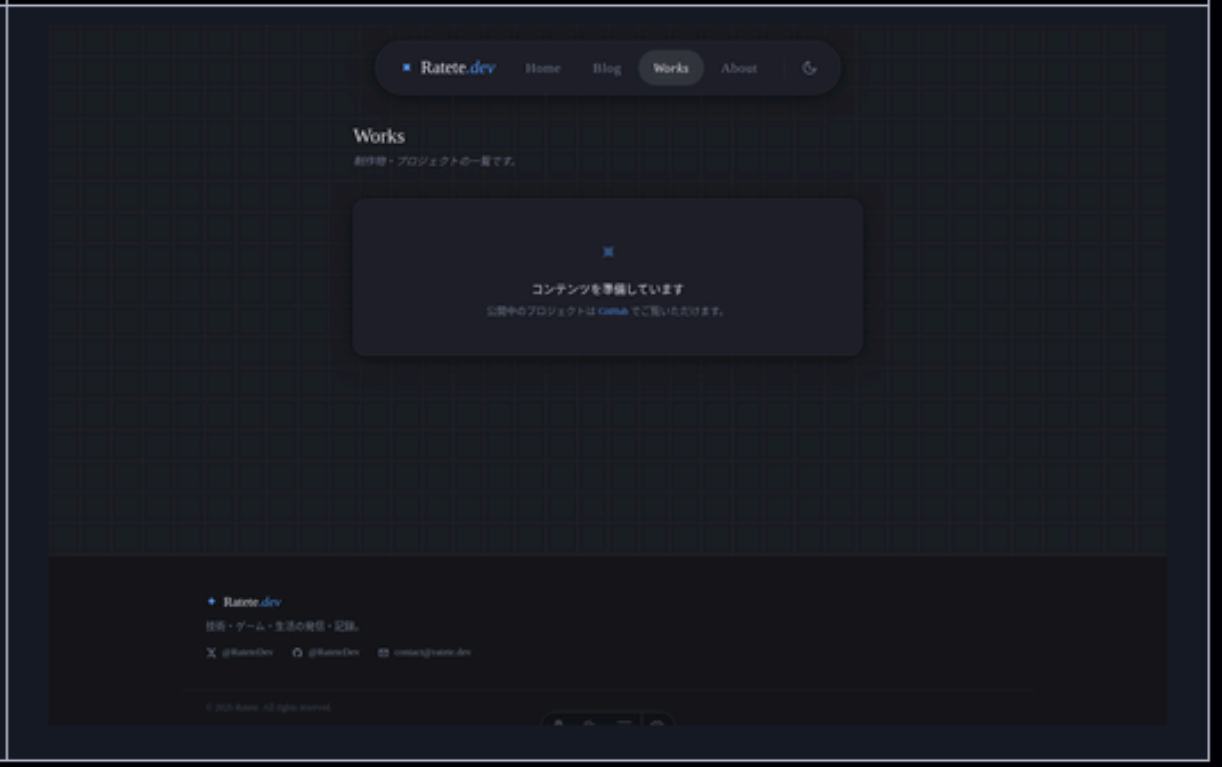
```
$ make typecheck
SITE_DATA_REFRESH=false bun tools/fetch-site-data.ts
[site-data] using cached file: /home/user/workspace/repos/web/.tmp/site-data/site.jsonc
bunx astro check
```

RateteDev commented 3 days ago • edited

Author

前回の比較画像は取得手順に不備があり、同一サーバーを参照してしまっていました。こちらが撮り直し済みの `/works` 比較です。

`/works` Before / After

Before	After
	

Q&A

ご質問お待ちしています